

事務事業名	ごみ再資源化推進事業（資源回収奨励金交付事業）	整理番号	34103-010
所 管	環境課 ごみゼロ推進スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	平成 62年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	御殿場市資源回収奨励金交付要綱
基本計画における位置付け	基本政策	3-4 資源循環型社会の構築	関連 3-4-2 省資源・省エネルギーの促進
	政 策	3-4-1 適正な廃棄物処理とリサイクルの推進	政策

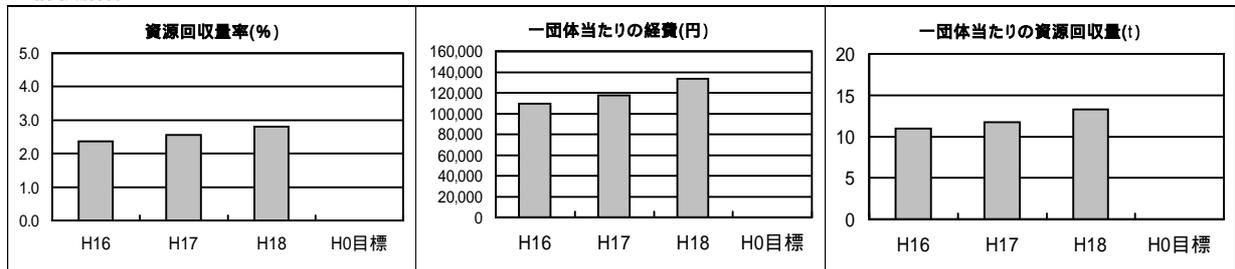
事務事業の内容

目的 (何のために)	廃棄物の資源化を推進するため。
対 象 (誰・何を)	資源回収団体（婦人会・PTAの団体等）
手 段 (どのようなやり方で)	御殿場市資源回収奨励金交付要綱により、回収した資源ごみ 1 k g あたり 1 0 円の奨励金を交付。
成 果 (どのような状態にしたいか)	廃棄物の資源化が図られる。
事務事業の背景・住民の意向	資源物の収集を促進することにより、ごみ減量及び再資源化を推進する。
見直し改善の経過	平成14年4月から補助金の単価を改定し、補助金の増額を行った。

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度	資源回収団体が実施した資源回収に対し、奨励金を交付する。 (回収量 702 t)	
平成17年度	資源回収団体が実施した資源回収に対し、奨励金を交付する。 (回収量 777 t)	
平成18年度	資源回収団体が実施した資源回収に対し、奨励金を交付する。 (回収量 880 t)	

評価指標



事務事業の評価

観点別・一次評価（担当部署の評価）		コメント	今後の方向性
観点別評価	必要性	資源枯渇を防止するためにも、廃棄物の再資源化が重要であり、積極的に推進していく必要がある。	
	有効性		
効率性			
一次評価	B		
二次評価（行政評価委員会の評価）		コメント	今後の方向性
二次評価	B	ごみの分別と併せ再資源化の重要性の啓発に努められたい。	継続

改革プラン

平成19年度からの対応	一般ごみにおける資源ごみ回収量が、平成18年度では減っている状況にはあるが、資源回収団体の回収量が、それ以上の回収量が増えることから、一般ごみにおける資源ごみと資源回収団体の資源ごみをトータル的に考えて、PRしていきたい。
平成20年度以降の対応	資源ごみの牛乳パック・古布類に対する分別意識をより一層PRすることにより、ごみ減量・再資源化を推進する。
改革により予想される成果	資源化・分別を充実させることにより、ごみの減量化が図られる。